

★西村さんは極鋭タチウオテンヤSPの73調子で気持ちよい曲がりを見せる

KYOKUEI TACHIUO TENYA SP + SEABORG 200J



★西村さんの最大は130センチ級



ANALYSTAR TACHIUO TENYA + SPARTAN MX IC

★高槻さんはアナリスタータチウオテンヤ82&91で大型を釣りまくる



高槻 慧、西村 豪太 だれでも気軽にテンヤ釣り 専用タックルなら楽しさ倍増

★ダイワの専用タックルを使い、2人は存分に大型の引きを堪能した

THE FRONT OF OFF SHORE FISHING vol.59

タチウオ最前線

at 東京湾奥浦安出船

◎東京湾のテンヤタチウオが大ブレイク。比較的釣り方も簡単、だれでもドラゴンをキャッチできるチャンスありとなればブレイクするのも当然だ。今回はテンヤ釣りの名手、高槻慧さんと西村豪太さんが、よりテンヤ釣りが楽しくなるダイワの専用タックルでの遊び方を紹介する。



▲西村さん(左)は極鋭タチウオテンヤに電動、高槻さんはアナリスタータチウオテンヤに手巻きで挑戦

■スバルタンMXIC150H/HL ■シーボーク200J-DH/DHL

★スーパーメタルフレームで剛性を高めたカウンター付きリールはタチウオテンヤに最適。他に200H/HLも。

★タチウオテンヤに最適な小型電動リール。手返しアップのダブルハンドル仕様も追加された。スロー巻き上げもお手のもの。

■SPEC:自重210g、ギア比6.3、最大ドラグ力5.0kg、メーカー希望本体価格25,000円

■SPEC:自重465g、最大巻上力38kg、最大ドラグ力8kg、メーカー希望本体価格79,000円

▶もはやテンヤ釣りの定番、快適船タチウオテンヤSS
▲サクサスフックで掛かりも抜群



高槻さんは自己の繰り返し、上がってくるのはいづれも1メートル級の大型ばかり。西村さんは130センチ級、高槻さんは自己



▲ついに自己記録の139.5センチのスーパードラゴンをキャッチ
▲140センチにはあと5ミリ

トル級の良型をキャッチした。一方の高槻さんは、「手巻きリールは釣った感じがありませんよ。アナリスターはコストパワースタイルにも最適、高感度グラスソリッドはしなやかで乗せやすい調子となっております」と言いながら、やや遅れて同級をキャッチした。1本型を見れば2人の快進撃は止まらない。下ろす、掛けるの繰り返し、上がってくるのはいづれも1メートル級の大型ばかり。西村さんは130センチ級、高槻さんは自己

極鋭タチウオテンヤSP KYOKUEI TACHIUO TENYA SP

★テンヤ釣法に求められる感度と操作性を高次元で実現した軽量専用ロッド。調子は73、82、91の3モデルで自在な使い分けも提案。spec:73-190AGS、82-182AGS、91-180AGSの3種。全長1.8~1.9m、自重100~105g、継ぎ数2本、メーカー希望本体価格51,000~52,000円

アナリスタータチウオテンヤ ANALYSTAR TACHIUO TENYA

★軽量高感度のグラスソリッドはアタリを弾かず目感度にも優れている。軽量、高感度のエアセンサーシート採用。spec:82-180、91-180の2種。全長1.8m、自重112~115g、継ぎ数2本、メーカー希望本体価格27,000~28,000円

テンヤタチウオX TENYA TACHIUO X

★入門者、予備竿としてコストに優れた1本。spec:180、200の2種。全長1.8~2.0m、自重127~135g、継ぎ数2本、メーカー希望本体価格16,800~17,800円

▲ダイワのタチウオテンヤシリーズ。下から極鋭タチウオテンヤSP、アナリスタータチウオテンヤ、テンヤタチウオX



▶極鋭タチウオテンヤSP(下)はスーパーメタルトップ(SMT)、他は高感度グラスソリッド

当日の動画はダイワ船最前線にてご覧いただけます。



「釣りあえず始めてみたけれど、タックルや釣り方を詳しく知りたい」というテンヤ釣りファンも多いことだろう。今回の高槻さんと西村さんの釣行は、そんな疑問に答えた釣行でもあった。乗船したのは東京湾奥浦安の吉野屋、テンヤタチウオ専門乗合である。「今日は私が極鋭タチウオテンヤSPにシーボーク200J、高槻さんがアナリスタータチウオテンヤにスバルタンMXICのコンビで釣ります」と西村さん。ハイエンドな竿に電動、汎用タイプの竿に手巻きリールの組み合わせ。予備にはテンヤタチウオXも用意。2人がどんな釣り方を見せてくれるのか楽しみだ。走水沖60メートルダチに到着。2人とも快適船タチウオテンヤSS50号、当たりカラーともえているマイワシ、紫セブラをメインに使用するようだ。指示ダナは45×55メートル、潮も速くなく釣りやすそうなので、西村さんは73調子、高槻さんは82調子を選んでいく。「穂先が柔軟ですが、軽量設計、SMTの採用で高感度。低活性時、ズル巻きでの乗せ掛け、バラシ軽減のメリットもあります」と西村さん。ストップ&ゴーのしなやかな誘いで早くも1メートル

記録となる139.5センチのスーパードラゴンまでキャッチ。笑いと歓声の絶えない時間がいつまでも続く。ある程度釣ったところで2人はロッドチェンジ。91調子で掛ける釣りに徹する。素早いジャークのあとに短い止め、アタリがあったら積極的に合わせる釣り方だ。「活性が高いとき、中小型が多いときには効果的です。手感度とフッキング性能に優れているので、掛ける楽しさを味わえます」と言いながらも、上がってくるのは大型ばかり。後半は竿を替え、テンヤを替え、様々な釣り方を披露し、午後2時過ぎの納竿を迎えた。2人そろって、「テンヤ釣りは簡単でもあり奥の深い釣り。竿の種類や調子、電動と手巻き、テンヤの種類、釣り方、それぞれに特性がありますが、自分の釣り方を模索しつつテンヤ釣りを楽しんでください」と言いながらこの日の釣りを終えた。

「とりあえず始めてみたけれど、タックルや釣り方を詳しく知りたい」というテンヤ釣りファンも多いことだろう。今回の高槻さんと西村さんの釣行は、そんな疑問に答えた釣行でもあった。乗船したのは東京湾奥浦安の吉野屋、テンヤタチウオ専門乗合である。「今日は私が極鋭タチウオテンヤSPにシーボーク200J、高槻さんがアナリスタータチウオテンヤにスバルタンMXICのコンビで釣ります」と西村さん。ハイエンドな竿に電動、汎用タイプの竿に手巻きリールの組み合わせ。予備にはテンヤタチウオXも用意。2人がどんな釣り方を見せてくれるのか楽しみだ。走水沖60メートルダチに到着。2人とも快適船タチウオテンヤSS50号、当たりカラーともえているマイワシ、紫セブラをメインに使用するようだ。指示ダナは45×55メートル、潮も速くなく釣りやすそうなので、西村さんは73調子、高槻さんは82調子を選んでいく。「穂先が柔軟ですが、軽量設計、SMTの採用で高感度。低活性時、ズル巻きでの乗せ掛け、バラシ軽減のメリットもあります」と西村さん。ストップ&ゴーのしなやかな誘いで早くも1メートル